

お父さんの育児休業体験



後藤浩行さんと2人のお子さん 夢太ちゃん(左)と未羽ちゃん

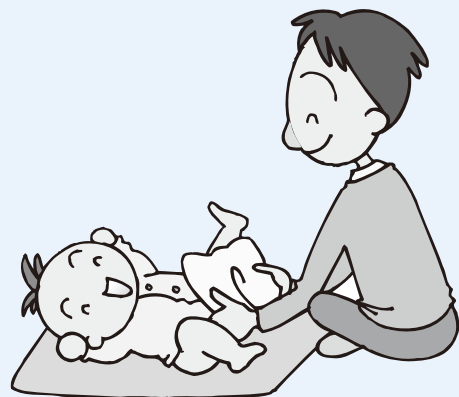
実際に6歳と4歳の2人の子どもの育児休業を取得(4か月と9か月)したことのあるJAいずも勤務の後藤浩行さんにインタビューしました。その体験談とこれからお父さんになる方への応援メッセージを紹介します。

◆大変だったことなどをお聞かせください

経済的に厳しかったですが、貯蓄や互助会からの融資のおかげで何とかやりくりができました。家事・育児で困った時には、近所の人の協力や一時保育を有効に活用したりして自分の時間を持ち気分転換できました。

◆どのようなきっかけで育児休業を取得されましたか？

就業していた妻の職場は、その当時育児休業の制度がなく、また、両親とは別居していたため、子どもの面倒を見る人がいませんでした。自分としても家事・育児に興味があり、また、私は人がやっていないことをやりたいという性格なので決めました。



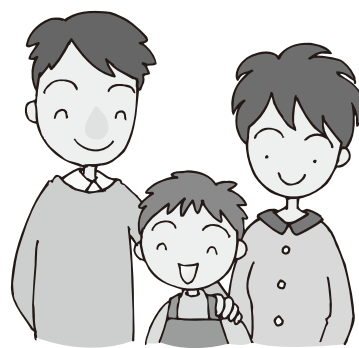
◆男性ではなかなか育児休業をとれない、とれない方が多いんですがどう思われますか？

◆これから考えている人へのメッセージをお願いします

何事もやってみなければわからないことがたくさんあります。育児休業の取得は短期的に考えれば難しいこともいろいろありますが、長期的に見ればこの経験がその後の生活や仕事の中でかなり役立つと思います。私は本当に楽しく家事・育児をし、育児休業を取得してとてもよかったと思いますし、ぜひ、みなさんにもお勧めしたいと思います。

後藤さんのように何でも前向きに考える人が増えると男女ともに育児休業をとることが普通になってくると思います。これからお父さんになる方、あなたの職場の先駆けになりませんか。

おたすねは
男女共同参画室
(R2)2020.05



少子・高齢化やそれに伴う労働力が減少している現在、男女がともにお互いの能力や生き方を認め合い、支え合い、個性輝く社会をつくることが求められています。

今回は、ライフスタイルの選択が多様化している中で、仕事と子育てが両立できる社会環境をつくるため、男性の育児休業について考えてみましょう。

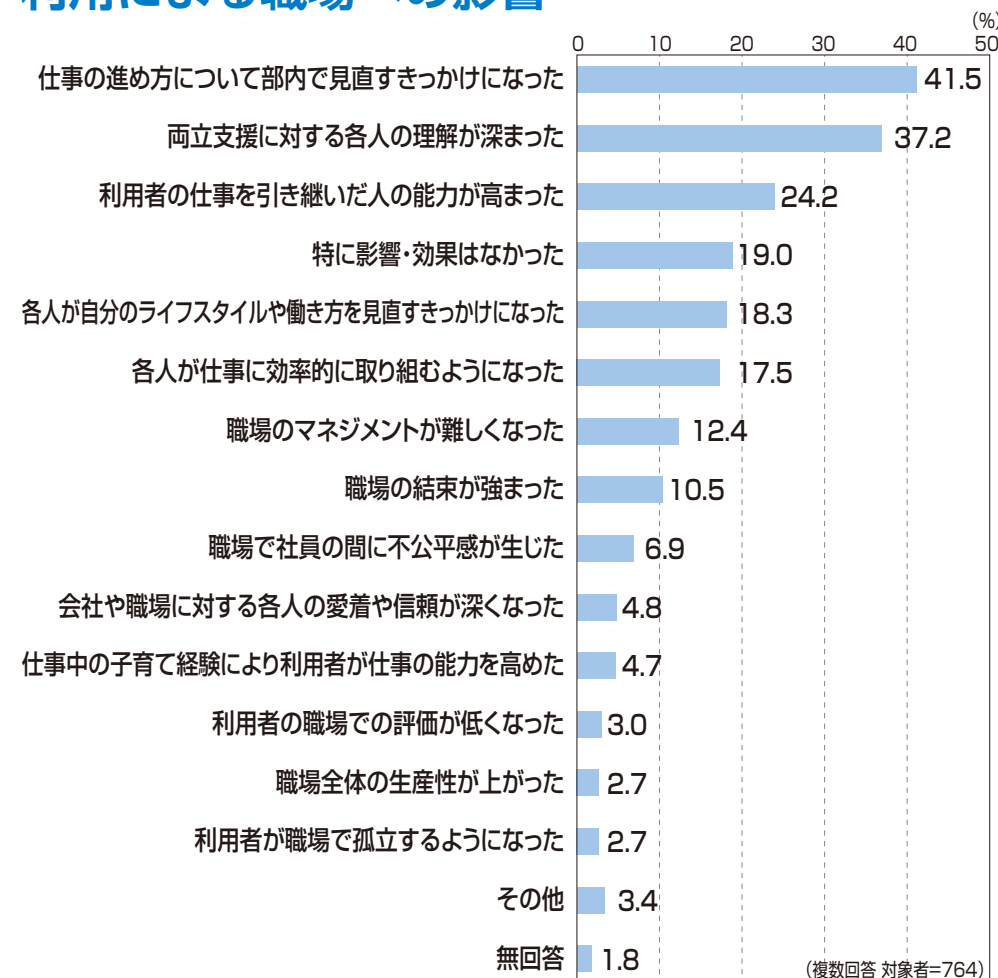
総合的にはプラスの影響

育児休業制度や短時間勤務制度を利用したことが、職場にどのような影響を及ぼしたのかを調査した結果が下表のとおりです。調査結果でも分かるように、職場全体への総合的な影響は「プラス」の影響が大きいです。

「育児休業制度」の取得状況

平成17年4月1日に改正された「育児休業 介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」により、仕事と子育てを両立するための育児休業制度が整備されています。制度の整備により、働く男女の子育て環境は改善されてきていますが、男性の取得者はまだまだ少ないのが現状です。

「育児休業制度」「短時間勤務制度」の利用による職場への影響



(備考) 1.調査対象:企業において両立支援策を利用した社員がいる部門の管理者 計7,000人 2.調査時期:2005年1月
(資料) 少子化と男女共同参画に関する専門調査会「管理者を対象とした両立支援策に関する意識調査」

育児休業を取るのはお父さん？お母さん？
見直してみようあなたのワーク・ライフ・バランス
(仕事と家庭の調和)